

# Independence 03

市立札幌開成中等教育学校 発展期通信 for 5年生

発行：2020年12月24日

## ”ウポポイ見学旅行報告”

11月19日(木)、20日(金)に実施された見学旅行の振り返りを紹介します。

民族共生象徴空間「ウポポイ」に行き、生徒たちはどのようなことを感じ、考えたのでしょうか。



一種のプライドというか、誇りのようなものはアイデンティティに関わるのだと思う。

アイヌ文化を後世に伝えようという人々の思いを感じることができたと思う。もともとアイヌ文化への興味があったこともあり、知識として知っていることはあったが、今でも多くの方が、文化を継承しようとしているその姿勢や心を知って、しみじみと時間の流れと残したかったものへの愛情のようなものを感じた。アイデンティティと関係性について考えたときに、新たに何かを定義したわけでもないのだが、帰属感と愛着には相関的な側面もあるのかなとふと思った。少なくともウポポイに展示されていたものたちには、文化を愛する人々によるものがほとんどだったと思うし。そういう心があるからこそ、私たちが触れる機会ができたので、やはり

ウポポイで観た“伝統芸能上演”には衝撃を受けた。“シノツ”とよばれるアイヌの歌、踊り、語りからは、自然や神様に敬意をもって低調に接し、神様の教えや自然界の動物(鶴や熊)の鳴き声や羽ばたきにインスピレーションを受け、それを個人では口や声、身体、衣服などを使って、集団では、リズムに合わせて多様なフォーメーションを組んで変化させたり、親子を演じたりして、幅を拡大し表現することで、他民族と異なる固有の文化性を有していたのが分かった。また、刺繍体験では、それぞれのアイヌ文様に確立された意味があり、それらを語り継ぐことで継承し、独自の“もの”を残すことでアイデンティティを高め、確立してきたのだと考えた。質問すると、アイヌの着物を1着縫うのに、1～3か月ほどかかるそうで、大切な思いを伝えるための努力が伝わってきた。

The Upopoy museum was founded to preserve and save the Ainu culture. It is also a symbol of people to respect each other and coexist with each other. With the growing demand for the protection of rights from indigenous peoples internationally in recent years, the creation of Upopoy has helped protect the dignity of ethnic minorities around the world.

アイヌについて知っている人たちは、ただ知識だけでなくアイヌ文化にある魅力を知っており、それを周りに伝えたいという意思があるからこそ胸に響くのだと思った。例えばウポポイで鑑賞したシノツなどは、自然を敬うアイヌの独特な価値観や表現を、施設の方が誇りをもって紹介してくれたので、とても圧倒された。また、その様な文化を直接経験できたとしても、その文化にある背景、例えばアイヌは文字をもたなかったから口頭伝承が発展したこと、自然を敬う気持ちから神話が生まれたことなどを聞くと、自分には持っていない発想や価値観にも惹かれていくと思った。

ウポポイではアイヌの人々が長い間守り抜いてきた伝統的な文化、芸能、ライフスタイルを実際に目で見て耳で聞いて、感じることで、アイヌという一つの民族の重要性を理解することができた。同時に自国の民族を知ることが、日本人としてのアイデンティティを確立し、異なる価値観を持つ人を認めることに最終的につながって

いくと考えた。札幌でオリンピック招致を目指し、外国人と共生する時代がやってくる中、次の社会を担う私たちが、率先して多様性を認め、他民族共生社会を築いていくべきではないか。

Upopoy is a key hub of handing over traditions. We can learn about the “Ainu” and their culture there. The Ainu people were not treated well by Japanese people during the Edo Period. We should know about it. Also, Upopoy is a symbol of the building of a forward-looking, vibrant society with a rich, diverse culture in which indigenous people are treated with respect and dignity without discrimination.

アイヌ民族の人たちは、昔から継承されてきたものをただ伝えているのではなく、時代に合わせたものに仕上げていて、アイヌ民族のアイデンティティは時代とともに変化してきているのだと感じた。アイヌ民族のことを学ぶことになってから「昔、北海道にいた民族」について学ぶという意識が少しあり、踊りや歌などをみて、昔の真似事ではない、プロジェクターなどを使った素晴らしい芸能であり、現代にしっかりと伝わっている民族で、そこに生きている自分とのかかわりは強くあると思った。北海道に住んでいるという自分にとって、遠いと思っていたアイヌの存在が近くに感じられ、関係性を意識することができた。北海道の先住民族であるアイヌ民族について知ることは、北海道で生まれ育っているというアイデンティティをもつ私にとって、とても重要なことで、とても関心があるので、アイヌ文化に触れ続けたい。

言語や容姿が異なっているものだとしても、大元は変わらないのではないか、という考えに至った。生活をするために必要な道具、それぞれ現代では狩りを行わないが、食事をする、何かを縫い合わせる、暖をとる、世話をする道具はとても似ていた。あえて異なる点を挙げるのならば、文様が入っているか否か、素材が自然由来か人工物かという点だろう。当時から状況における必要なものはその形で存在していて、現代では、それがより快適で便利なものへと変化していったのだろう。そして、それから言えることは、血統が異なることを除けば、アイヌの人々は他の国の文化や日本の文化と大きく違わないということだ。博物館では、当時差別を受けていたという事実が残されていた。確かに、言語や生活様式、容姿が自分と自身を取り巻く環境と異なれば、恐怖を覚えるかもしれない。しかし、現代にも通ずるが、自身の正解が異なるからと言って、歩み寄ろうとしないのは、最も間違っていると私は考える。何よりもまずは知ることが全てにおいて重要である。



### ○ファーストチャンスについて

本校は発展期で、進路に対する意識を高めるために、「セカンドチャンスシステム」という取組を行っています。

5年次1月、2月の模擬試験を1回目の本番の入試（ファーストチャンス）と見立て、ドッキング判定による合否を3月に発表します。ファーストチャンスの結果を自分ごととして捉えて振り返り、セカンドチャンスとして6年次の実際の入試に臨んでもらいます。

冬季休業中、1月17日（日）にマーク式模試を行います。今年は約140名の参加がありました。マーク式の模擬試験は、共通テストと同じ日程です。つまり、実際に受験生が共通試験を受けている裏で、ファーストチャンスの試験を行うこととなります。記述型模試は1月31日（日）に実施です。

ファーストチャンスの合格発表は、3月12日（金）の予定です。

### ○冬休みの窓口 iTunesU”発展期5、6年”

いよいよ冬季休業ですね。冬季休業期間（12/25～1/17）は、学校に生徒は入ることができません。あわせて、学校の電話が利用できない日もあります。iTunesU”発展期5、6年”を利用して、皆さんに連絡することがあるかもしれません。学校のHPと合わせて、こまめに確認してください。

また、今年はコロナの影響で、例年の冬休みとは違ったトラブル等が起こる可能性もあります。みなさんが教員と連絡を取りたい場合や、なにか相談などがある場合、このiTunesUを窓口としますので、課題欄から投稿してください。

健康観察記録も忘れずに！ 充実した冬休みになることを祈っています。